

# やなけん!

台東区立谷中小学校 研究だより

第13号

令和5年2月10日(金)

台東区立谷中小学校

研究推進委員会

**研究主題** よく考え工夫する児童の育成 ～体育科におけるICTの活用を通して～

## 第7回研究授業報告!

【日時】2月6日(月)5校時 【対象】4年2組36名  
【授業者】竹内 忍 教諭 【領域】ネット型ゲーム  
【単元名】「みんなでアタック！」

中学年分科会では、3年生でも行ったネット型ゲームの研究授業を生かして、研究をすすめてきました。思考力を高めるために、得点ボードや作戦ボード、教師からのアドバイス、良い動きの共有など、様々な場面でICTを活用しました。チームタイムでは、児童がタブレットの周りに集まって作戦を話し合う姿もありました。また、指導者の計画と実際の指導場面が合っているかを確認するため、「答え合わせコーディングシート」を開発し、運動量の確保に生かしました。



### 授業評価シートより

【研究の視点(1) 運動量の確保】

・皆、苦手意識が感じられないくらい積極的にボールに触っていたのが印象的だった。

【研究の視点(2) 思考力を高めるためのICTの活用】

・「〇〇が最後アタック!」「後ろから前にアタックしよう!」など、自分が考えたことを仲間に伝え合ったり、「ナイス!」など、認め合ったりする2種類の声がたくさん上がっていた。

・ルールを児童と相談して決めるので、いろいろなアイデアが出てくるのがよいと感じた。

【研究の視点(3) 指導と評価の一体化】

・「ナイス!」「いいね!」という声掛けが多く、よいチームプレイができていた。

・運動があまり得意ではない児童も、楽しんで取り組んでいた。

・みんな竹内先生の体育が大好きなんだろうなと感じた。

【その他】

・台東区では5年生でビーチ大会があるので、中学年のネット型ゲームの入りの運動として適切だと感じた。

・3年生の研究授業を踏まえていて、系統性があった。

・分科会の取り組み、分科会提案の発表が素晴らしい!

	平均値
1. 児童の運動量は十分に確保されていた。	4.5
2. 教師は場面展開をスムーズに行っていた。	4.6
3. 児童の移動や待機の場面が少なかった。	4.4
4. 児童はよく考えて学習していた。	4.3
5. 児童は動きを工夫して運動していた。	4.2
6. 児童の思考力を高めるためにICTの活用は有効であった。	4.2
7. 児童は主体的に学習に取り組んでいた	4.8
8. 児童は楽しく学習していた。	4.7
9. 児童は授業の約束事を守っていた。	4.4
10. 教師は児童に適切な言葉かけをしていた。	4.1

### 講師の先生より

・今回の授業ではICTを多く活用しており、児童も積極的に活用できていた。今回の実践を通して、効果的だったものやそうでないものをよく見極め、次の授業に生かせるとよい。また、ICTを活用することを「目的」にしてしまい、活動そのものの低下を招かないように留意することが大切である。さらに、児童が自分でタブレットを使うか使わないかを選択して学習することも個別最適な学びにつながる。

・ICTの活用には缶詰の効果と鏡的效果の他に、「ポートフォリオ的效果」がある。これまでの学習の写真や映像を撮りためて記録し、自分の学習過程を振り返ることができるようにするという活用方法も考えられる。

### 授業者(竹内 忍教諭)より

・分科会でICTを多く活用する授業を考えたときに、反対に運動量が減ってしまうのではないかと懸念が私の中で芽生えていた。子供達が覚えきれないのではないか、事前に考えたコーディングシート案のように進めることは難しいのではないかと、非常に心配していたが、実際はそうではなかった。4学年後半という発達段階でも十分に成り立つということに驚きを感じている。体育に限らず、子供達の主体でICTを活用した授業を続けていけば、もっと成果が上がると確信できた研究授業であった。講師の先生からもあったが、『ICTを活用しなければならない』ではなく、『必要に応じて使う』という子供達が取捨選択できる環境が大事だということも改めて勉強になった。

このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。この経験を後世に伝えていけたらと思います。